

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田小学校

I 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字や文法問題では間違えた箇所は必ず直したり、国語辞典やタブレットを利用して習熟を図ったりしてきた。
- ・NIE（新聞活用）学習を行い、新聞の中から興味がある記事や、気になる記事を切り抜き、見出しを付けたり、内容を要約したりし、異学年のホールに掲示して互いに見合う活動を行ってきた。

(2) 課題

- ・ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きを定着させる。語句の量を増やし、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解する。
- ・書いて表現する力を育てる。文章の構成や段落相互の関係を理解しながら読みすすめる力を育てる。
- ・読書などを通して、日頃から活字を読む習慣を付ける。自分の考えをもち、言葉で表現する経験を積み重ねる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽		
第5学年	▽	▽ (第4学年時)	
第6学年	▽	▽ (第5学年時)	▽ (第5学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第3学年に配当されている漢字を正しく読み書きできている。 ・主語と述語の関係や国語辞典の使い方に課題がある。	・登場人物の様子や気持ちを叙述を基に捉えることもできる。 ・話し合い活動では、司会の役割を果たしながら考えをまとめることに課題がある。 ・自分の考えを明確にして文章を書くことに課題がある。	・ICTを利活用しながら、自分のめあてと振り返りを積み重ね、自己調整しながら学習に取り組んでいる。 ・読書などを通して、日頃から活字を読む習慣を付ける。自分の考えをもち、言葉で表現する経験を積み重ねる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一学年前に配当されている漢字を正しく書いたり読んだりすることができている。(6年) ・行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(5年)	・話し合いの内容を目的に応じて聞き取ることができている。 ・説明文で段落相互の関係を読み取ったり、構成を考えたりする問題には課題がある。 ・記述問題は前年度に引き続き回答率がかなり低く、多くの児童が苦手意識をもっていると考えられるため、引き続き取り組むべき課題である。	・書くことへの苦手意識からテストの記述問題の無回答や、学習中に自分の考えを書く学習で手が止まる児童が多いと考えられる。生活でも、自分の思いをうまく伝えられずトラブルになるケースが多い。語彙を増やし、適切な言葉を使えるようにさせたい。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・分からない漢字は、その場でドリルや教科書を使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・紙やタブレットのドリルを活用して、文の組み立てについて、繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。 ・国語の授業中だけでなく、各教科で日常的に既習漢字を書く習慣を身に付けさせる。	・スモールステップで、項目ごとなどに分けながら表現したり、書いたりすることで、書くことへの負担感や苦手意識を軽減させる。 ・書いたものを、ペアやグループ、壁面掲示などで読み合う活動や場を設け、見られる意識を付ける。 ・苦手意識がある児童のために、文型や話型などを活用する。作文指導では、構成を手助けするワークシートを用意して活用する。 ・自分で書いた文章を読み直す習慣を身に付けさせる。「は、を、へ」や主語述語のねじれや繰り返しなどの基本的な間違いに気付かせる。 ・説明的な文章では、時間的な順序や事柄の順序を把握し、内容の大体をとらえる練習を積み重ねる。 ・文学的な文章では、挿絵などを活用して場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える練習を積み重ねる。	・好きな遊びや食べ物など、簡単な質問から、自分の考えを伝える練習を積み重ねる。 ・選択肢を与えることで、自分で選ぶ練習をさせる。 ・友達と交流する機会を設けて、相手に自分の考えを伝える経験を積み重ねる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・ 分からない漢字は、その場で辞典やドリルを使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 紙やタブレットのドリルを活用して、主語・述語や修飾語など文法についての繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。 ・ 国語の授業中だけでなく、各教科で日常的に既習漢字を書く習慣を身に付けさせる。	・ 教員や保護者、友達、異学年など様々な対象に文章を書いて伝える学習場面で相手を意識した作文の機会を取り入れる。 ・ 自分の考えの理由や事例を挙げながら、話が明確になるように意識させて書かせる。 ・ 書いたものを、ペアやグループ、壁面掲示などで読み合う活動や場を設け、丁寧な言葉遣いで書く習慣を付ける。 ・ 苦手意識がある児童のために、文型や話型などを活用する。作文指導では、構成を手助けするワークシートを用意して活用する。 ・ 文章を再考する視点を与えて、自分が考えた文章が相手に伝わりやすいか振り返る習慣を身に付けさせる。 ・ 説明的な文章では、段落相互の関係に着目させながら、それを支える理由や事例との関係について捉える練習を積み重ねる。 ・ 文学的文章では、登場人物の行動や気持ちなどを、叙述をもとに捉える練習を積み重ねる。	・ 選択肢を与えることで、自分で選ぶ練習をさせる。 ・ 友達と交流する機会を設け、友達の真似をしても良い環境づくりをすることで、自分の考えをもちやすくする。 ・ 友達と相談して良さを認め合う機会を設けることで、自分の意見に自信をもたせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・ 漢字のもつ意味を考えさせ、同音異義語などを正しく使えるようにする。分からない漢字などは、その場で辞典やドリルを使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 紙やタブレットのドリルを活用して、主語・述語や修飾語など文法についての繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。	・ 教員や保護者、友達、異学年など様々な対象に文章を書いて伝える学習場面で、相手を意識した作文の機会を取り入れる。その際、対象によって言葉を使い分けることや、理由や事例が含まれていることなどの視点を与えて、自分で再考する習慣を身に付けさせる。 ・ 話の内容が明確になるように。事実と感想、意見なのかを区別しながら自分の考えが伝わるように書かせる。 ・ 苦手意識がある児童のために、文型や話型などを活用する。作文指導では、構成を手助けするワークシートを用意して活用する。	・ 自分の考えを表現することが苦手な児童のために、いくつか選択肢を与えて、選ぶことで表現させる。 ・ 友達と交流する機会を設け、友達の意見を踏まえて自分の考えを再検討する活動を取り入れることで、考えを深めたり、広げたりさせる。

	る。 ・文字数が多くなる作文では、タブレットを使い、書いたり推敲したりすることへの負担を軽減していく。 ・説明的な文章では、事実と感想、意見などの関係を押さえて、文章全体の構成を把握する練習を積み重ねる。 ・文学的な文章では、登場人物の相互の関係や心情について描写を基に捉える練習を積み重ねる。	
--	--	--